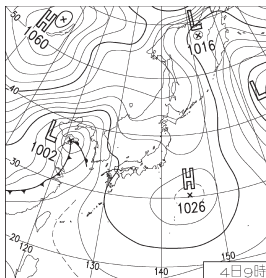


日々の天気図

— No. 62

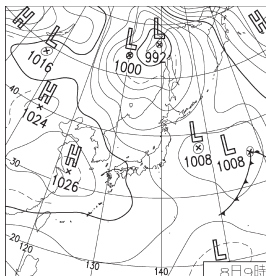
2007年3月

- ・12日、強い冬型の気圧配置により、新潟県湯沢町69 cm/24 hの降雪。
- ・25日、「平成19年(2007年)能登半島地震」M6.9(暫定)が発生。石川県七尾市、輪島市、穴水町で震度6強を観測。
- ・30日、低気圧が通過し、阿蘇山で43.7 m/sの最大瞬間風速を記録。(気象庁予報部予報課)



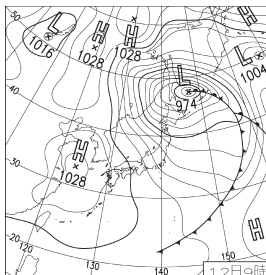
4日(日)九州で25°C超える

東日本～西日本は本州南東海上の高気圧に覆われて晴れたが、北日本の一部は曇り。西日本は気温が上がり、九州の最高気温は所により25°Cを超え、5月中旬～下旬並。



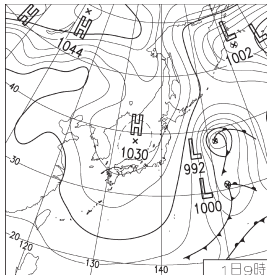
8日(木)冬型気圧配置緩む

日本付近は弱い冬型の気圧配置。北日本から山陰の日本海側は雪や雨。太平洋側は概ね晴れ。北陸や南西諸島の最高気温は真冬並、富山県高岡市伏木で平年より7.2°C低い1.7°C。



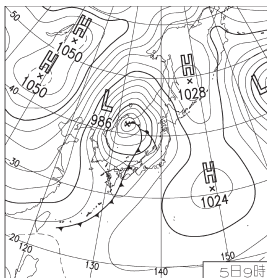
12日(月)冬型の気圧配置

オホーツク海には猛烈に発達した低気圧。北日本の日本海側、北陸は引き続き大荒れの天気。新潟県湯沢町で69 cm/24 hの降雪。山形県酒田市飛鳥で日最大風速26 m/s。



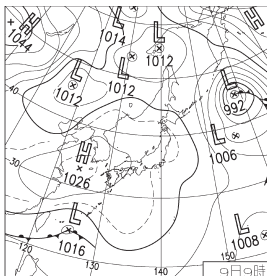
1日(木)穏やかな春の陽気

前日からの関東～北日本太平洋側の強風は次第に弱まり、日本付近は広く高気圧に覆われる。沖縄で朝晩雨の他は全国的に晴れ。気温は北海道を除き3月上旬～4月中旬並。



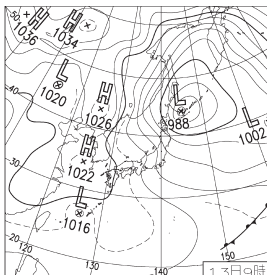
5日(月)日本列島に春の嵐

寒冷前線が通過し各地で強風。短時間強雨を観測。強風による災害発生。千葉県勝浦市で43.5 mm/1 h。最大瞬間風速は松江市西津田で35.3 m/s。気温は4月上旬～下旬並。



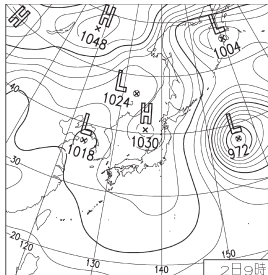
9日(金)高気圧圏内

日本付近は東シナ海の高気圧に広く覆われる。沖縄の南では低気圧発生。日本海側は所々雨か雪。沖縄が雨の他は概ね晴れ。日平均気温は全国的に平年並か低い。



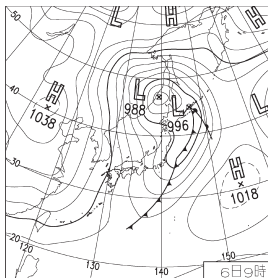
13日(火)引き続き冬型気圧配置

オホーツク海に低気圧があり東進。北日本は雪で所々吹き雪き。海上は大荒れ。北陸から山陰は曇りや雨。太平洋側は概ね晴れ。北海道浦賀町潮見町で最大瞬間風速34.2 m/s。



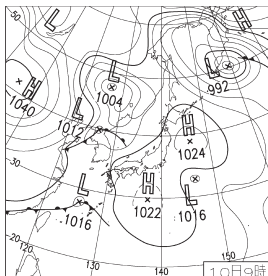
2日(金)九州で20°C超える

日本付近は引き続き高気圧に覆われ、八重山諸島で雨の他は全国的に晴れ。九州は所々で最高気温が20°Cを超え、4月中旬～5月上旬並。沖縄県と那国町組納で64.5 mm/1 h。



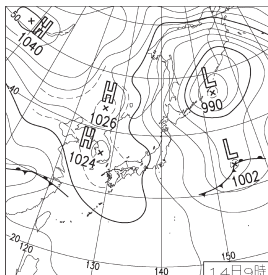
6日(火)一転して冬の空気に

冬型の気圧配置となって寒気流入。日中気温が下降し、北海道は雪。東北～山陰の日本海側も雨から雪に変わる。太平洋側は晴れの所が多いが、関東の一部で寒気による雨や雷雨。



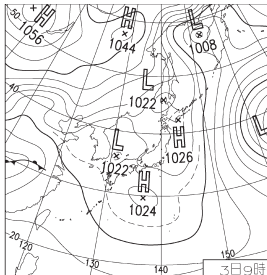
10日(土)九州南部 激しい雨

朝鮮半島から日本海を低気圧が東進、別の低気圧が東シナ海を東進。北本州は晴れから次第に曇り。九州の雨域は次第に北上し、鹿児島県屋久島37 mm/1 hの激しい雨。



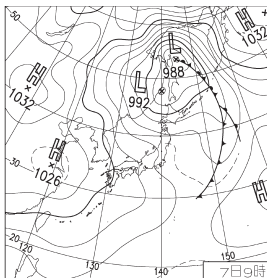
14日(水)冬型の気圧配置緩む

朝鮮半島の高気圧が西日本に張り出す。北日本の寒気も小康状態。午前中を中心に北日本の日本海側で雪。北陸の一部で雨残る。その他の地方は概ね晴れ。



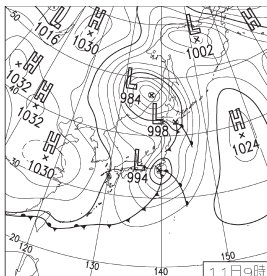
3日(土)暖かな桃の節句

日本付近は高気圧に覆われたが、日本海北部と山陰沖に低気圧。朝の内は全国的に曇り。昼ごろから東北、関東、九州は晴れ。東北南部から西の最高気温4月中旬～5月中旬並。



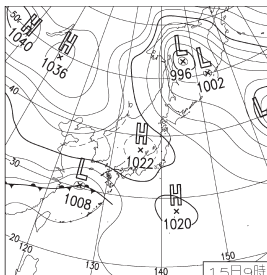
7日(水)冬型の気圧配置

北日本の日本海側～北陸では雪。各地の最高・最低気温は真冬並に逆戻り。水戸市では平年より68日遅れの初雪観測。北海道幌加内町朱鞠内で57 cm/日の降雪。



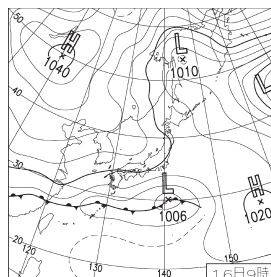
11日(日)北日本 大荒れ

日本の南北には2つの低気圧。西日本から東海、関東は雨。北日本の上空約5400 m付近で-40°C以下の非常に強い寒気が流入。北日本～北陸は暴風を伴った大雪や高波。



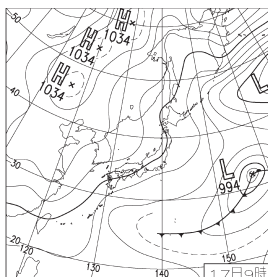
15日(木)沖縄県で激しい雨

北日本は、冬型の気圧配置で日本海側は雪や曇、太平洋側では概ね晴れ。西日本、南西諸島は低気圧と前線の影響で朝から雨。沖縄県久米島空港で65 mm/1 h。



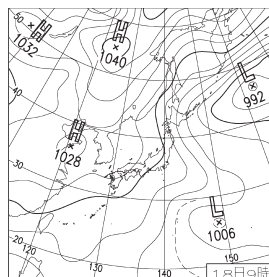
16日(金)東京都心 遅い初雪

本州の南海上を低気圧が東進、九州～関東南部は低気圧や前線の影響で曇りや雨。近畿以北は大陸からの高気圧に覆われ概ね晴れ。東京大手町、千葉県銚子市・勝浦市で遅い初雪を観測。



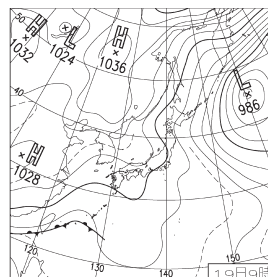
17日(土)南関東で二日続けて雪

冬型の気圧配置で北日本の日本海側～山陰は雪。関東は北東からの冷たい気流で昼過ぎまで雨や雪の所も。千葉県館山市の最高気温は平年より7℃も低く真冬並の7.0℃。



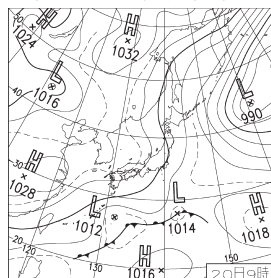
18日(日)北日本中心の冬型気圧配置

北日本の日本海側は雪、北陸は雪や雨。太平洋側と近畿以西は概ね晴れ。新潟県湯沢で39 cm/24 h、長野県小谷村で38 cm/24 hの降雪。長野県松本市は晴れてウグイス初鳴き。



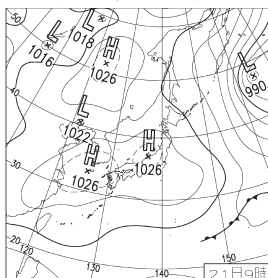
19日(月)引き続き北日本は冬型

東日本は晴れて太平洋側は乾燥。九州南部から南西諸島は雨、北陸から北の日本海側は雪の所多い。宮城県栗原市駒ノ湯34 cm/24 hの降雪。宇都宮市でモンシロチョウ初見。



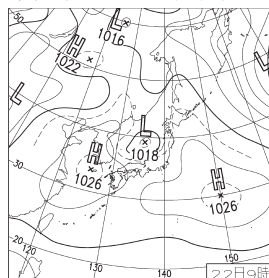
20日(火)東京、ソメイヨシノ開花

北・東日本は冬型の気圧配置で日本海側は曇りや雪、太平洋側は、高気圧に覆われた西日本と共に概ね晴れ。ソメイヨシノ、東京都大手町で開花。千葉県銚子市・勝浦市で遅い初雪。



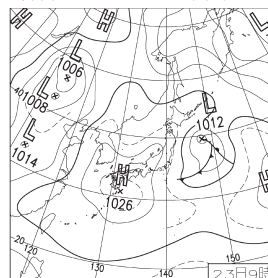
21日(水)穏やかな春分の日

日本付近は移動性高気圧に覆われ、関東以西は山陰の一部を除き晴れ。北日本は所々で寒気の影響で曇りや雪。南西諸島は所々で雨。福岡市、甲府市でソメイヨシノ開花。



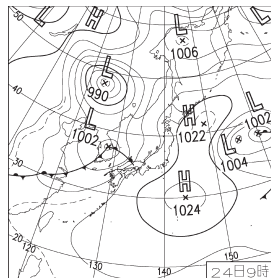
22日(木)東北～近畿地方で春雷

北日本の上空約5400 m付近に30℃以下の寒気が流入。東北～近畿地方の広範囲で局地的に雷雨。兵庫県豊岡市でひょう。大分市、広島市でソメイヨシノ開花。



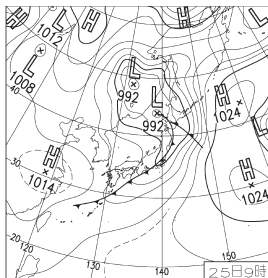
23日(金)高気圧圏内

日本付近は九州南部の高気圧に覆われ、東日本～北日本は概ね晴れ。一方、北日本は弱い寒気の影響で所々雪や雨。熊本市、高知市、名古屋市、横浜市等9市でソメイヨシノが開花。



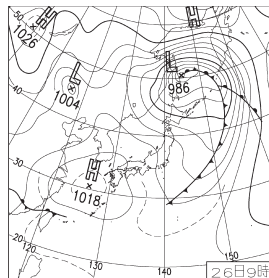
24日(土)本州天気ぐずつく

低気圧が朝鮮半島から日本海へ進み、北海道を除いて天気は下り坂。西日本から次第に雨。東日本でも夕方には雨。水戸市、静岡市、佐賀市、長崎市でソメイヨシノ開花。



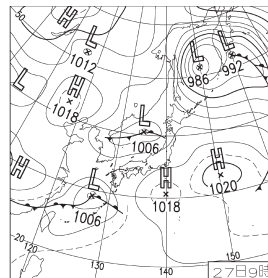
25日(日)能登半島で震度6強

日本海を低気圧が北東に進み寒冷前線が本州を通過。最低気温は4月中旬～5月下旬並。千葉市の16.9℃は6月上旬並。能登半島地震で石川県七尾市、輪島市、穴水町で震度6強。



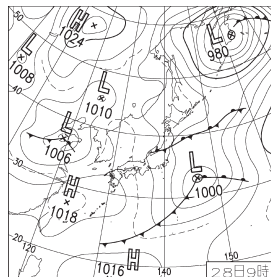
26日(月)暖かな東・西日本

余震の続く能登半島など北陸の一部は雨、北海道は曇りや雪。西～東日本は高気圧に覆われて晴れ、最高気温は20℃前後と暖か。関東～九州の9地点でソメイヨシノ開花。



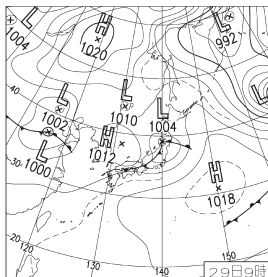
27日(火)東北で黄砂観測

日本海と東シナ海には前線を伴った低気圧があって東進。北海道は雪。他は曇りや雨。南西諸島は20～30 mm/1 hの強い雨。東北6地点(仙台市、福島市、山形市等)で黄砂。



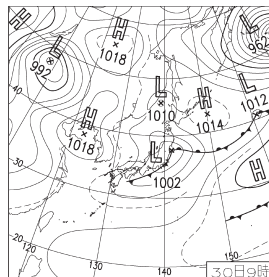
28日(水)西日本一帯に黄砂

前線が東北部から北陸にのびる。北日本と北陸は曇りや所々雨や雪。その他は概ね晴れ。九州から近畿地方にかけての広い範囲で黄砂を観測。



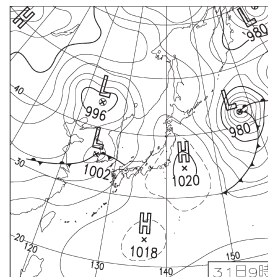
29日(木)九州・関東で初の夏日

低気圧が東北を通過。暖かい南風が入り、東北部以西は4月から7月上旬並の気温。最高気温は鹿児島市東部元町と栃木県小山市で26.2℃。東京でソメイヨシノ満開、全国最早。



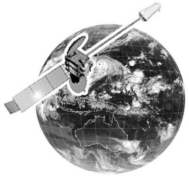
30日(金)天気は西から回復

低気圧は29日夜九州北部、30日午前中に西～東日本に雨を降らせ足早に関東沖へ抜けた。西日本の太平洋側では暖かい朝となり、5月中旬～6月中旬並。名古屋市でツバメ初見。



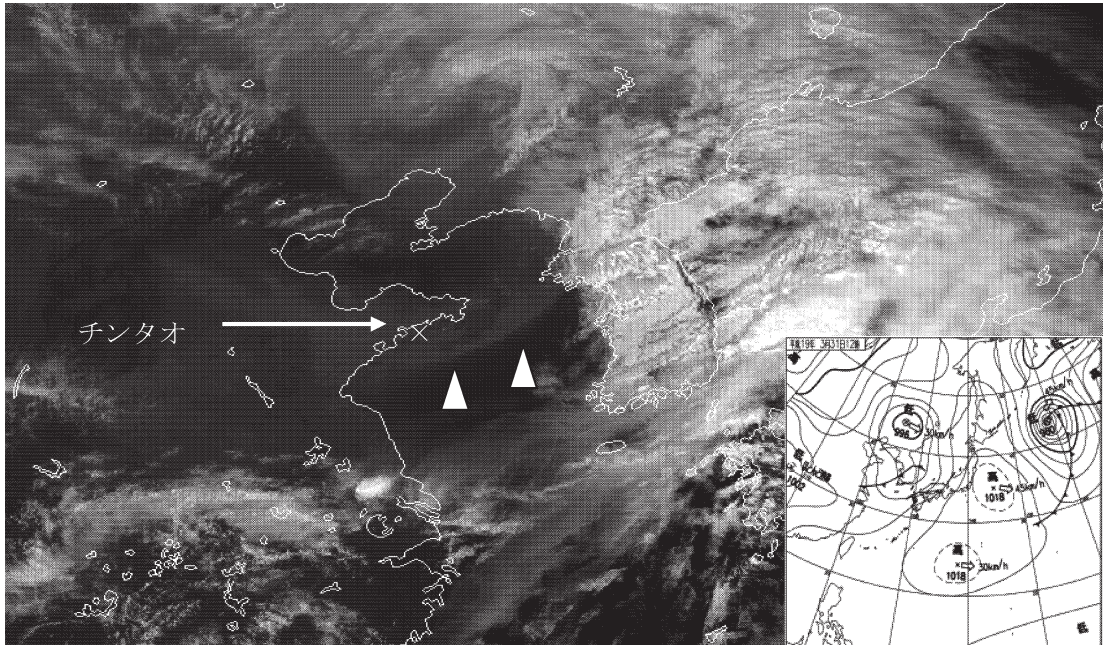
31日(土)低気圧 足早に通過

高気圧は東海上に抜ける。夕方から夜にかけて前線を伴った低気圧が日本海を通過。また、西日本を夜、前線が通過。西～東日本は雷を伴った雨。



今月のひまわり画像—2007年3月

春を呼ぶ黄砂



3月31日13時の可視画像

31日12時 地上天気図

黄砂は、中国内陸部の黄土地帯やタクラマカン砂漠、ゴビ砂漠など乾燥・半乾燥地域で低気圧などに伴う強風によって発生した砂塵嵐により、数千m上空まで巻き上げられた鉱物・土壌粒子が偏西風に運ばれ東アジア、西太平洋地域を中心に広く拡散あるいは降塵する現象である。

写真は31日13時の可視画像である。黄砂は可視画像上では明灰色域の比較的明瞭な境界として見える。同画像の黄海から中国東北区にかけて見られる明灰色の濃淡のあるパール状をした領域が黄砂である（三角印）。この黄砂は、ゴビ砂漠の北で発生した低気圧によって数千m上空まで巻き上げられ、中国東北区に

進んだ低気圧や朝鮮半島の前線付近まで偏西風によって運ばれたものと推定される。この黄砂に覆われた中国シャントン半島東岸のチンタオでは当日15時には視程が2～3kmと視界不良となった。また、翌日の4月1日には東京都心で今年初めて黄砂が観測された。

日本における黄砂観測日数は、2000～2002年に急増しており、その原因は未だ多くの未解明な点があるが、可能性の1つとして中国北西部の土地の劣化との関連性が指摘されている。このように黄砂は単なる季節的な気象現象から、森林減少・土地の劣化・砂漠化といった環境問題としての認識が高まっている。

(気象衛星センター)